

# ハートレター

第 121号

2023年8月17日

発行:社会福祉法人 絆の会

発行責任者: 土井 まゆみ

事務局所在地:

長野市若里 3-14-23

TEL:026-226-6045

FAX: 026-262-1262

houjin@kizuna-nagano.or.jp

<http://www.kizuna-nagano.or.jp/>



社会福祉法人絆の会

検索

2Pからの内容

- ・退任にあたって 太田廣美
- ・太田前理事長に心から感謝を込めて
- ・家族会 総会 交流会
- 3P・ひまわりの会 対面での定期総会開催
- ・第23回全国精神障害者ソフトバレーボール 北信地区大会で優勝(6月23日)
- ・ボランティアさんから太極拳を教わっています
- 4P・20周年記念事業に向けて
- ・オレンジ若里オープニングイベント
- ・メンバーの活躍あれこれ
- ・新任職員紹介
- ・メンバーの活躍あれこれ ・他

## 法人化20周年 新体制でスタート

### 未来へ伝える

絆の会理事長 土井まゆみ

太田さんと私が入職した31年前、1992年4月21日無認可作業所「ゆたか荘」(現悠友ハウス)がスタートしました。作業所って何だろう?自立って?自己決定って?誇りの持てる働き方って?繰り返し語り合い、実践してきたことを、2003年の法人化で、絆の会の理念・指針としてまとめました。それは、当事者、家族、ボランティア、職員の4本柱で会を形作っていく姿の具現化となりました。

そこから20年の今年、「語り合い、学びあい、未来へ伝える」とスローガンを掲げて、法人化20周年記念事業の取組が進んでいます。当事者の会である「ひまわりの会」は、職員に依存せず自分たちのやりたい取組へと着実に意欲と動きが感じられます。家族会は今までの行事・研修会をそのまま継続することをやめ、今の家族に必要な集いを自らの手で企画しています。ボランティアは「絆カフェ」で互いの壁(バリア)なく、安心感に包まれた、それこそ当事者、家族、職員も皆で集える空間を作り出しています。職員は支援ミーティングを核に支え合い協力できるチームをめざして奮闘しています。それぞれの実践を結集し、その実を未来へ伝えていきましょう。

わが国へ目を転じれば、2022年の国連権利委員会の対日審査は低劣深刻な日本の障害者福祉の実態を浮き彫りにしました。不良な子孫の出生を防止すると定めた優生保護法(1948年~1996年)の被害者はわかっているだけでも25000人、裁判は終わってもなお傷深い相模原事件等、ナチスドイツの優生政策にもつながる差別の実態は、私たちが決して無関心でいてはならないことです。私たち自身の内側に潜む小さな芽を見逃さない人権感覚で自分たちの今を見つめるとともに、国全体を社会を好転させる働きの一部を担うために、4本柱一丸となって前に進んでいきたいと願っています。

未曾有のコロナ禍を支えてくださった太田前理事長の後を引き継ぎました。微力ですがどうぞよろしくをお願いします。

#### 新役員体制 (2023年6月~2025年6月)

- ・理事 土井まゆみ(理事長) 岡村美奈子(副理事長) 荒谷麻美子(常務理事)  
太田廣美 小林久子 坂口和美 増田修史 山越つむ枝
- ・監事 西澤利雄 山田米一
- ・相談役 小林亮一 大池ひろ子

